

第8章 専門家ヒアリング及び鳥類対策検討会

第1節 自然環境項目に関する専門家ヒアリング

1. 現地調査計画に対するヒアリング

平成 25 年度作成した環境影響評価方法書を基に、各項目について学識経験者へのヒアリングを行い、調査計画の妥当性の確認を行うとともに、特に留意すべき調査対象の有無の確認を行った。なお、「人と自然との触れ合いの活動の場」については、対象となる要素の存在確認を行った。

ヒアリング対象者を表 8.1-1 に示し、ヒアリングの概要を表 8.1-2 に示す。

表 8.1-1 ヒアリングを行う専門家と実施日

No.	聞き取り分野	氏名	所属	ヒアリング実施日
1	哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会	平成 27 年 3 月 16 日
2	鳥類	大塚之稔	日本野鳥の会 岐阜県支部代表	平成 27 年 3 月 16 日
3	両生類	山田和生	岐阜県立中津高等学校教諭	平成 27 年 3 月 27 日
4	爬虫類	矢部隆	愛知学泉大学 現代マネジメント学部教授	平成 27 年 3 月 26 日
5	昆虫類	野平照雄	岐阜県昆虫分布研究会 (一財)自然学総合研究所	平成 27 年 3 月 16 日
6	魚類	駒田格知	名古屋女子大学家政学部教授	平成 27 年 3 月 19 日
7	植物	西條好迪	岐阜県自然共生工法研究会副会長 (一財)自然学総合研究所理事長	平成 27 年 3 月 16 日
8	人と自然との 触れ合いの活 動の場	中津川市役 所 観光課	—	平成 27 年 3 月 20 日
9		中津川市役 所 文化振興課	—	平成 27 年 3 月 20 日
10		中津川市役 所 管理課	—	平成 27 年 3 月 20 日
11	景観	野崎悠子	YUPLLOT 造形研究室 主宰(H26.8月時点) 愛知県立芸術大学 名誉教授 (H26.8月 時点)	平成 27 年 3 月 26 日

※敬称略

表 8.1-2(1) 学識者からの助言・指摘事項

No.	聞き取り分野	氏名	助言・指摘事項の概要
1	哺乳類	梶浦敬一	<ul style="list-style-type: none"> 調査データの信頼性を担保するため、自動撮影カメラを設置し、個体の写真撮影を行うと良い。 自動撮影カメラとシャーマントラップは、可能であれば1週間程度設置できると良い。 アズマモグラの生息可能性、モモンガの巣穴になりそうな樹洞がある可能性があるため、留意すること。
2	鳥類	大塚之稔	<ul style="list-style-type: none"> 今のところ、今後注視すべき鳥類はオオタカだけだと思われる。 現地調査結果から、フクロウは当地域には生息していないと考えられる。 春季、夏季に夏鳥の確認に努めること。
3	両生類	山田和生	<ul style="list-style-type: none"> ヤマアカガエルやニホンアカガエル、コガタブチサンショウウオが生息している可能性があるため、留意すること。 ヒダサンショウウオは、初夏に幼生の確認を行うと良い。 計画ルート周辺の樹林内には、両生類が生息する上で重要な湿地等が複数存在しているため、留意すること。
4	爬虫類	矢部隆	<ul style="list-style-type: none"> ヘビ類はカエル類を餌とするため、両生類調査でカエルが確認された場所を集中的に調査すると良い。 カメトラップは、1河川につき5個程度設置し、1日2回トラップを確認する方が良い。 東濃地域では、ニホントカゲに類似するヒガシニホントカゲが生息しているため、注意が必要である。 ヤモリは、古い人家に生息していることが多いため、聞き取り調査をすると良い。 夜行性のヘビ（マムシ、シロマダラ、タカチホヘビ）を対象とした調査を8月頃に1晩実施すると良い。特に雨上がりはヘビが道路上に出てくることがある。
5	昆虫類、水生動物	野平照雄	<ul style="list-style-type: none"> トンボ類は行動圏が広いため、遠方から飛来した個体が偶然捕獲されることがある。水たまり周辺でトンボが確認されたら、なるべく多くの個体を確認できるよう、時間をかけて調査を実施すること。 ライトトラップ・ベイトトラップは、環境区分毎に複数設置した方が良い。
6	魚類	駒田格知	<ul style="list-style-type: none"> カジカやアジメドジョウが生息している可能性があるため、留意すること。 調査範囲は茶臼川、千旦林川だけでなく、調査範囲内の小さな湿地や水路でも行うと良い。 ホトケドジョウは、耕作放棄地の水路や湿地、流れの緩やかな河川などに生息している。 河川内では、土が溜まって流れが緩やかになっている場所を中心に調査を行うと良い。
7	植物	西條好迪	<ul style="list-style-type: none"> 湿地は梅雨前と後で環境が大きく変化するため、春季と夏季に調査を実施した方が良い。 植生調査は、9月上旬に実施した方が良い。 コドラートの調査面積は、最も高い樹高を調査範囲の1辺と考えて設定すること。1つの群落に対して、5方形区程度取ることが望ましい。 人工林の調査を行う際、維持管理された林であるか確認を行い、記録してほしい。

※敬称略

表 8.1-2(2) 学識者からの助言・指摘事項

No.	聞き取り分野	氏名	助言・指摘事項の概要
8	人と自然との 触れ合いの活 動の場	中津川市役 所 観光課	<ul style="list-style-type: none"> ・岩屋堂のシデコブシ群生地、坂本のハナノキ群生地及び星ヶ見公園の他、中山道、恵那峡県立自然公園が存在する ・恵那峡県立自然公園の特別地域や普通地域が計画路線にかかるが、詳細は改めて確認する必要がある。もし、各地域内に計画路線が入る場合、事前に申請書または届出が必要になる。 ・調査区域内の中部北陸自然歩道は連絡ルートのため、自然歩道には適していない道のため、該当外として良いと考える。 ・恵那峡には遊覧船コースがあり、下流から源流岩付近で折り返す。計画路線は美恵橋を改変せず、遊覧船に乗っている人から視認することはできないため、該当外として良いと考える。
9		中津川市役 所 文化振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線周辺には、提示された以外、「人と自然との触れあい活動の場」に該当するものの存在は認識していない。
10		中津川市役 所 管理課	<ul style="list-style-type: none"> ・計画路線周辺には、都市公園・自然公園など休日に人がよく集まるような公園は存在しない。
11	景観	野崎悠子	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な眺望点だけではなく、調査範囲内の圍繞景観を把握し、必要に応じて調査地点を追加すること。 ・事業実施による圍繞景観の変化に対して、最低限どのように工夫すれば住民に納得してもらえるのか検討すること。

※敬称略

2. 現地調査結果に対するヒアリング

自然環境全般の現地調査結果について各分野の学識経験者8名にヒアリングを行い、調査結果の妥当性及び事業実施による影響が懸念される対象種及び環境の有無について確認を行った。ただし、景観の野崎氏については、平成26年度のヒアリング時に” 圍繞景観” に関する意見を頂いたため、調査計画の見直し案について説明し、意見を伺った。

ヒアリング対象者を表 8.1-3 に示す。

表 8.1-3 ヒアリングを行う専門家と実施日

No.	聞き取り分野	氏名	所属	ヒアリング実施日
1	哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会	平成28年3月2日
2	鳥類	大塚之稔	日本野鳥の会 岐阜県支部代表	平成28年3月9日
3	両生類	山田和生	岐阜県立中津高等学校教諭	平成28年3月2日
4	爬虫類	矢部隆	愛知学泉大学 現代マネジメント学部教授	平成28年3月8日
5	昆虫類	野平照雄	岐阜県昆虫分布研究会 (一財) 自然学総合研究所	平成28年3月8日
6	魚類	駒田格知	名古屋女子大学家政学部教授	平成28年3月8日
7	植物	西條好迪	岐阜県自然共生工法研究会副会長 (一財) 自然学総合研究所理事長	平成28年3月8日
8	景観	野崎悠子	YUPLOT 造形研究室 主宰 (H26.8月時点) 愛知県立芸術大学 名誉教授 (H26.8月時点)	平成27年8月19日

※敬称略

ヒアリングの結果、調査結果の妥当性については問題ないと了承いただいた。また、今後予測評価を行う上での留意点等について助言をいただいた。

ヒアリングの概要を表 8.1-4 に示す。

表 8.1-4 学識者からの助言・指摘事項

No.	聞き取り分野	氏名	助言・指摘事項の概要
1	哺乳類	梶浦敬一	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施による影響が懸念されるような種はないと思う。 今後「移動可能な通路の設置」と「落ちた時に這い上がる側溝の設置」を検討して貰いたい。設置間隔に基準はないので、事業者の実施可能な範囲で構わない。
2	鳥類	大塚之稔	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施による影響が懸念されるような種は、オオタカ以外はないと思う。 オオタカについては今後も継続的な調査を実施し、鳥類対策検討会に諮っていく予定であることから、現状では問題ないと考えている。
3	両生類	山田和生	<ul style="list-style-type: none"> 中津川市内でナゴヤダルマガエルが確認されるのは珍しい。岐阜県東濃地域では多治見市までしか生息が確認されていないため、分布域の東限にあたるかもしれない。 現地調査結果を踏まえると、ナゴヤダルマガエルに対する事業影響が想定されると考えられるため、事業実施は好ましくない。今後、予測評価を実施した結果、本種に対する事業影響が想定された場合は、保全対策として産卵場の創出や整備等を検討し、成体と幼生が生息できる環境を作れると良い。
4	爬虫類	矢部隆	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施による影響が懸念されるような種はないと思う。
5	昆虫類	野平照雄	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施による影響が懸念されるような種はないと思う。
6	魚類	駒田格知	<ul style="list-style-type: none"> 事業実施による影響が懸念されるような種はないと思う。 予測評価を行う際は河川毎の環境情報も踏まえた上で、重要な魚類の生息環境に対する事業影響を評価すること。 重要種1種は河川内に生育するヨシなどを生息環境として利用するため、そのような環境は残しておくが良い。 重要種1種が確認された湧水湿地は、計画路線よりも標高の高い位置に存在するため、影響はないものと思われる。
7	植物	西條好迪	<ul style="list-style-type: none"> 梅雨を境に湿地の植生は変わることが多い。そのため、可能であれば次年度に湿地植生の調査を春季と夏季で実施した方が良い。 今のところ、事業実施による影響が懸念されるような種はないと思う。
8	景観	野崎悠子	<ul style="list-style-type: none"> 囲繞景観の観点から、改変される場所の自然環境や住民の視点に立った生活環境の状況を調査し、改変後の環境変化による影響を把握することが重要である。

※敬称略

3. 予測評価結果に対するヒアリング

(1) 自然環境項目に関する専門家ヒアリングの実施

自然環境全般の予測評価結果の妥当性を確認するため、各分野の専門家8名にヒアリングを行った。平成28年度に補足調査を実施した項目は、調査結果の報告も併せて実施した。

また、平成27年度に現地調査結果の妥当性に関するヒアリングを実施しているため、その聞き取り記録簿の内容についても確認した。

ヒアリング対象者を表8.1-5に示し、ヒアリングの概要を表8.1-6に示す。

表 8.1-5 ヒアリングを行う専門家と実施日

No.	聞き取り分野	氏名	所属	ヒアリング実施日
1	哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会	平成29年2月28日
2	鳥類	大塚之稔	日本野鳥の会 岐阜県支部代表	平成29年2月28日
3	両生類	山田和生	岐阜県立中津高等学校教諭	平成28年7月26日 平成29年3月22日
4	爬虫類	矢部隆	愛知学泉大学 現代マネジメント学部教授	平成29年3月7日
5	昆虫類	野平照雄	岐阜県昆虫分布研究会 自然学総合研究所	平成29年3月7日
6	魚類	駒田格知	名古屋女子大学家政学部教授	平成29年3月1日
7	植物	西條好迪	岐阜県自然共生工法研究会副会長 (一財)自然学総合研究所理事長	平成29年3月7日
8	景観	野崎悠子	YUPLLOT 造形研究室 主宰) 愛知県立芸術大学 名誉教授	平成29年3月2日

※敬称略

表 8.1-6 学識者からの助言・指摘事項

No.	聞き取り分野	氏名	助言・指摘事項の概要
1	哺乳類	梶浦敬一	<ul style="list-style-type: none"> ・事業実施により、動物の生息環境は少なからず消失・縮小するため、予測結果の記載については、「生息環境は保全される」という表現ではなく、「事業影響は小さい」等という表現に変更することを検討されたい。 ・カモシカは移動性の高い種であり、生息環境は広いため、事業実施による影響は小さいと考えられる。 ・注意標識を設置することは、ドライバーに対するロードキル防止対策として有効と思われる。注意標識は道路の入口等、目立つところに設置すれば良いと思われる。 ・人身事故を減らすためにも、小型哺乳類のロードキル防止対策として、対象道路を横断する水路がタヌキ、イタチ等の移動経路としても機能するよう、事業者の実行可能な範囲内で工夫してほしい。
2	鳥類	大塚之稔	<ul style="list-style-type: none"> ・予測結果の内容について、問題ないと考えている。
3	両生類	山田和生	<ul style="list-style-type: none"> ・供用後、両生類の移動経路を確保するため、道路を横断する水路の構造に配慮されたい。また、両生類がU字溝から這い出すことができるよう、配慮されたい。 ・供用後に、土工部ではロードキル発生の可能性がある。ロードキル防止対策の1つとして、盛土部の法尻に段差を設ける方法が有効と思われる。 ・文献調査で確認されたヒダサンショウウオについては、実際にはコガタブチサンショウウオではないかと思われる。当該地域の環境を踏まえると、コガタブチサンショウウオが生息している可能性がある。
4	爬虫類	矢部隆	<ul style="list-style-type: none"> ・予測結果の内容について、問題ないと考えられる。 ・東濃地域では、重要種1種は自然分布していないものと思われる。現地調査で確認された重要種1種は、「ペットとして飼育されていた個体が河川に放流された”国内外来種”」である可能性がある。重要種1種を予測対象種として取り扱うことについては、問題ない。
5	昆虫類	野平照雄	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果及び予測結果の内容は、問題ないと考えている。 ・ヒメタイコウチは主に東濃地域に分布する種であるため、当該地域では重要視されている。当事業では本種の確認地点の直接改変はないため、影響はないものと思われる。
6	魚類	駒田格知	<ul style="list-style-type: none"> ・予測結果の内容及び重要種2種を対象とした補足調査の実施について、問題ないと考えている。 ・重要種2種の生息環境への影響を極力低減させるため、両種が確認された水路に工事中の濁水や土砂、供用後の排水や凍結防止剤等が流入しないよう配慮すること。 ・環境教育の一環として、周辺の小学校を巻き込んだ生物観察会を実施してみてはどうか。
7	植物	西條好迪	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果及び予測結果の内容、スズサイコ、ヒメコヌカグサを対象とした補足調査の実施について、問題ないと考えられる。
8	景観	野崎悠子	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の予測結果を基本とし、今後の環境の変化を踏まえて、適宜予測結果を見直して、事業に活かしていただければ良い。

※敬称略

(2) 爬虫類専門家との現地視察

爬虫類の専門家（愛知学泉大学 矢部教授）との現地視察を実施（平成 28 年 7 月 15 日）し、事業実施による爬虫類の生息環境への影響について、指導・助言をいただいた。現地視察にて頂いた助言等を表 8.1-7 に示す。

表 8.1-7 現地踏査で頂いた助言・指摘事項の概要

No.	助言・指摘事項の概要
1	重要種1種が確認された岩屋堂地区のため池は、計画路線より上流側に位置しているため、事業実施による本種への生息環境への影響はないと思われる。
2	耕作地脇のため池で確認されたミシシippアカミミガメは、特定外来生物である。甲羅の大きさから想定し、生後2～3歳の幼体と思われ、この地域で繁殖している可能性が懸念される。確認地点は記録しておくこと。
3	現地視察により図面では分からない現場状況を把握することができた。全体を通して、事業実施による影響が懸念される種はないと思われる。

4. 環境保全措置の検討結果に対するヒアリング

自然環境全般の予測結果及び環境保全措置の検討結果の妥当性を確認するため、各分野の専門家6名にヒアリングを行った。平成29年度に補足調査を実施した項目は、調査結果の報告も併せて実施した。

ヒアリング対象者を表 8.1-8 に示し、ヒアリングの概要を表 8.1-9 に示す。

表 8.1-8 ヒアリングを行う専門家と実施日

No.	聞き取り分野	氏名	所属	ヒアリング実施日
1	哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会	平成29年10月20日
2	鳥類	大塚之稔	日本野鳥の会 岐阜県支部代表	平成29年10月20日
3	両生類	山田和生	岐阜県立中津高等学校教諭	平成29年11月7日
4	昆虫類	野平照雄	岐阜県昆虫分布研究会 (一財)自然学総合研究所	平成29年10月13日
5	魚類	駒田格知	名古屋女子大学家政学部教授	平成29年7月5日
6	植物	西條好迪	岐阜県自然共生工法研究会副会長 (一財)自然学総合研究所理事長	平成29年10月13日

※敬称略

表 8.1-9(1) 学識者からの助言・指摘事項

No.	聞き取り分野	氏名	助言・指摘事項の概要
1	哺乳類	梶浦敬一	<ul style="list-style-type: none"> ・ボックスカルバートの設置は、計画道路において横断する道路や横断する水路（工夫が必要）を代用するとよい。 ・横断道路に側溝がある箇所は、出入り口にスロープ等を設置し、横断しやすい環境を作っておくとよい。 ・ホンダタスキの移動能力は高く、移動距離は7～8kmであることから、ボックスカルバート（横断道路や横断水路を利用）は、500mに1箇所程度設置すればよい。 ・スロープ付側溝の設置は、這出工法の側溝を計画されるとよい。 ・侵入防止柵の設置は、全線設置する必要はなく、主に生息が確認された場所を中心とした切土部分を対象に計画するとよい。
2	鳥類	大塚之稔	<ul style="list-style-type: none"> ・岩屋堂地区のオオタカがH26、H28年の営巣木より移動したか否かを把握するためにも、今後も調査を継続し、データを蓄積する必要がある。 ・岩屋堂地区のオオタカが東側へ移動した可能性があるのであれば、今後の調査は繁殖地を把握することを目的とした調査を実施することが望ましい。 ・今後の調査は、3月～7月に月1回の頻度で定点調査を実施する計画とし、実施定点は、オオタカの出現状況に応じて臨機応変に変更して調査するとよい。 ・H26、H28 営巣地の東側の開発地が営巣地に近いのであれば、繁殖地として適さないと考えられるため、本年度移動した可能性が高い。ただし、再度利用する可能性もあるため、今後の調査時においても、H26、H28 年営巣木の地上ビデオカメラ監視を実施するとよい。

※敬称略

表 8.1-9(2) 学識者からの助言・指摘事項

No.	聞き取り分野	氏名	助言・指摘事項の概要
3	両生類	山田和生	<ul style="list-style-type: none"> ・供用後、土工部では、ロードキル発生の可能性が懸念されることから、片斜のスロープ水路を設置する等して、ロードキル防止を検討されるとよい。また、両生類の移動経路を確保するため、ボックスカルバートの設置、道路を横断する水路の構造に配慮されたい。 ・計画ルート最北部には、コガタブチサンショウウオが生息している可能性があるため、工事の際は留意が必要である。 ・個体の移植は、遺伝的多様性の維持には有効かと思われる。ただし、移植された個体が移植先で種内競争を行うことが予測され、個体数維持にはつながらない可能性がある。
4	昆虫類	野平照雄	<ul style="list-style-type: none"> ・オオムラサキの幼虫の移植は、冬季の1月、2月のエノキの落葉時期に地面を探し、確認された個体を移植する計画とするとよい。 ・春頃になると幼虫はエノキに上ってしまうため、幼虫を見つけることは非常に困難であり、適切に移植できない。 ・ギフチョウの卵の移植は4月～5月までに実施する。工事の開始時期によっては、卵の移植ができないことから、工事開始前に調整して移植を検討することが望ましい。 ・ヒメカンアオイ（ギフチョウの卵）は、事業計画地で移植可能な場所を選定し、産卵が確認された個体のみ移植すればよい。
5	魚類	駒田格知	<ul style="list-style-type: none"> ・移植を検討している重要種1種は、流れのある場所を選定すること。止水域では生息できない。 ・移植先については、別途適地を調査し、適地が得られた場合に検討されるとよい。 ・移植先は、生息密度が極端に高くないよう留意すること。
6	植物	西條好迪	<ul style="list-style-type: none"> ・シデコブシ、ハナノキ、サクラバハノキ、フモトミズナラは大経木の移植は困難である。大経木の移植は、種子の播種等を計画されるとよい。 ・上記4種の移植の実施方法は、移植実施直前に再検討し、決定することが好ましい。 ・改変区域で多く確認されている種は、全量を移植するのではなく、遺伝的多様性を考慮して各地点についてサンプリングしたものを移植する計画とされるとよい。 ・移植先は、事業計画地内で検討されることが望ましい。移植先の環境を精査し、適地に移植する必要があるため、移植候補地の調査を実施するとよい。なお、移植先が得られた種について、移植を行う。 ・移植後はモニタリングが必要である。モニタリング方法については、移植後の妥当性を確認できる方法を計画する必要がある。例えば、1m²当りのプロット地点を5～6地点設定し、それぞれについての生育状況を確認し、モニタリング結果の妥当性を検討していくことが望ましい。 ・移植後の活着は、100%は望めず、30%程度である。 ・ハナノキ、シデコブシ群生地環境保全措置については、地元保護団体と共同して実施されるとよい。

※敬称略

第2節 オオタカ保全対策検討会

オオタカに対する事業の影響を予測し、保全対策を検討するため、専門家による検討会（鳥類対策検討会）を実施した。検討会では、実施する調査及び予測の手法、環境保全対策について幅広く意見聴取を行い、専門的な知識の導入を行うこととした。

検討会は、生態系、鳥類、植物の各分野の専門家3名で構成している。

検討会はこれまでに計7回実施している（平成26年度3回、平成27年度3回、平成28年度1回）。これまでのオオタカの現地調査と鳥類対策検討会の経緯を表8.2-1に、検討会の開催状況及び審議事項を表8.2-2示す。

表 8.2-1 オオタカの現地調査と鳥類対策検討会との関係

年月	現地調査	鳥類対策検討会
H26 12月		第1回（12/25） ・検討会設置要綱の説明 ・H27.1月の現地概査 ・今後の調査
H27	1月 予備調査（1/17） ・古巣の状況確認 ・古巣周辺の営巣環境、餌場環境の確認	第2回（2/5） ・H27.1月の現地概査結果 ・今後の調査 ・今後の中長期スケジュール 第3回（2/23） ・第2回検討会意見の取りまとめ ・オオタカに関する今繁殖期調査 ・その他鳥類相に関する調査
	2月 営巣場所調査（2/16-17） ・定点観察調査	
	3月 営巣場所調査（3/1-6、3/17-18） ・定点観察調査	
	5月 第4回鳥類対策検討会 現地視察（5/14） ・現地踏査	第4回（5/14） ・現地視察結果 ・第3回検討会の総括 ・オオタカの繁殖期における現地踏査
	6月 繁殖状況調査（6/25-26） ・定点観察調査、林内踏査	第5回（9/11） ・鳥類対策検討会 これまでの総括 ・現地視察結果 ・鳥類対策検討会（第1～4回）総括
	7月 繁殖状況調査（7/29-30） ・定点観察調査、林内踏査 現地視察（7/31） ・現地踏査	
	9月 自然環境調査、社会環境調査（9/28-10/1） ・営巣環境としての植生調査 ・既存施設、土地利用、 法的規制等の状況の把握	
H28	2月	第6回（2/2） ・自然環境・社会環境調査結果 ・今後の中長期スケジュール
H28	3月 営巣場所調査（3/14-16） ・定点観察調査	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■4, 5月の繁殖状況調査の目的 オオタカの営巣地近傍での動植物調査の実施 にあたり、動植物調査中にオオタカの行動を 確認しながら調査を実施したものである。</p> </div>
	4～5月 繁殖状況調査（4/25-28、5/18-19） ・定点観察調査、林内踏査、 地上ハンディビデオ録画	
	6月 繁殖状況調査（6/29-30） ・定点観察調査、林内踏査、 地上ハンディビデオ録画	
H29	2月	第7回（2/16） ・H28繁殖期の調査結果 ・今後の中長期スケジュール
H29	3月 営巣場所調査（3/14-15） ・定点観察調査	
	5～6月 繁殖状況調査（5/29、6/22-23） ・定点観察調査、林内踏査、 地上ハンディビデオ録画	

表 8.2-2 検討会の開催状況及び審議事項

年度	回	場所・時間	審議事項
H26	第1回	平成26年12月25日 各務原産業文化センター 15時～16時30分	<ul style="list-style-type: none"> ・設置要綱 ・H27.1月の現地概査について ・今後の調査について
	第2回	平成27年2月5日 各務原産業文化センター 15時～16時30分	<ul style="list-style-type: none"> ・H27.1月の現地概査結果について ・今後の調査について ・今後の中長期的スケジュールについて
	第3回	平成27年2月23日 持ち回り説明	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回検討会意見の取りまとめについて ・オオタカに関する繁殖期調査について
H27	第4回	平成27年5月14日 現地視察、中津川市役所坂 本事務所 13時～17時	<ul style="list-style-type: none"> ・現地視察結果について ・第3回検討会意見の取りまとめについて ・オオタカの繁殖期における6月の現地調査について
	第5回	平成27年9月11日 各務原市産業文化センター 13時～15時	<ul style="list-style-type: none"> ・現地視察結果について ・鳥類対策検討会（第1回～第3回）総括について ・鳥類対策検討会 これまでの総括について
	第6回	平成28年2月2日 各務原市産業文化センター 14時～15時30分	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの検討会の振り返りについて ・現地調査結果（自然環境調査、社会環境調査）について ・今後の予定について
H28	第7回	平成29年2月16日 各務原市役所、岐阜県庁 持ち回り説明 (10時～、13時30分～、 15時～)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの経緯について ・H28繁殖期の調査結果について ・今後の中長期スケジュールについて ・オオタカの営巣適地解析について

検討会での助言・指摘事項等について以下に整理した。

1. 第1回検討会

(平成26年12月25日(木) 15時～16時30分 各務原市産業文化センター)

◆議事要旨			
審議事項	発言者	意見の主旨	当日の回答
1. 設置要綱の説明			
	事務局	設置要綱が了承され、平成26年12月25日より適用となった。	—
2. H27.1月の現地概査について			
	検討会委員	岩屋堂地区には、平成26年11月に確認されたオオタカの巣以外に、オオタカの行動圏内に過去に使用した別の巣がある可能性がある。今年度の冬季に、岩屋堂地区の林内踏査を実施し、別の巣がないか確認を行うこと。	冬季に調査を実施する。
	検討会委員	オオタカは枝振りの良いアカマツを好むことが多い。オオタカの営巣木を確認した場合、枝の張り具合を記録しておく、保全対策として代替巣を設置する場合の参考となるので良い。営巣木を探すには、落葉期が良い。	今後、検討する。
	検討会委員	オオタカの保全対策を検討するに当たり、周辺の樹林地へ誘導できる余地があるのか、周辺に生息するオオタカとの関係について、早めに把握する必要がある。平成27年度は、繁殖成否の確認だけでなく、おおまかな行動範囲を把握するような調査を行うと良い。	今後、検討する。
3. 今後の調査について			
	検討会委員	“行動圏の内部構造を把握する調査”の実施時期は、工事着手3年前及び2年前に実施すること。工事着手1年前は、保全対策の必要性とその内容の検討・実施に充てる必要があると思われる。	今後、検討する。
	検討会委員	調査範囲周辺に、鳩小屋のある人家が存在する場合、鳩小屋にオオタカが入り込んだことがないか、ヒアリングを行うと良い。	鳩小屋があった場合、ヒアリングを実施する。
	検討会委員	調査範囲周辺の樹林について、植生や人の利用状況も調査した方が良い。	周辺樹林の植生や、人の利用状況について、調査を実施する。
	検討会委員	これほど里に近い営巣は珍しい。一度、委員と現地視察にいけると良い。現場状況がイメージできると、意見も活発に出るものと思われる。	岩屋堂地区及び周辺地域の調査が一通り終了し、ある程度データが集まった段階で、現地視察ができれば良いと考えている。
	検討会委員	現場では、植生を確認すべきである。また、近隣開発事業による影響も考慮する必要がある。	—
4. その他			
	検討会委員	近隣開発事業におけるオオタカ調査のデータについて、情報提供を受けられると良い。	調整する。

2. 第2回検討会

(平成27年2月5日(木) 15時～16時30分 各務原市産業文化センター)

◆議事要旨			
審議事項	発言者	意見の主旨	当日の回答
1. H27.1月の現地概査結果について			
	検討会委員	岩屋堂地区のオオタカが営巣した樹林には、オオタカが営巣可能な環境が複数存在していること、また周辺地域に生息するオオタカ同士の主要な行動圏が重なりあっていないことから、次年度以降は岩屋堂地区のオオタカが、同じ行動圏の中で営巣場所が移る可能性がある。	今後の調査で、営巣場所の把握に努める。
	検討会委員	営巣環境の適否について、△、×と定性評価した樹林の中にも、オオタカが営巣可能な樹木は存在する可能性がある。今回の評価結果に問題はないが、当該地域に生息する複数の個体の行動圏も含め、植生状況を中心とした詳細な環境調査を今後実施し、営巣環境の適否について定量的に評価できると良い。	今後、植生調査を予定しており、データの定量的取得を行う。
	検討会委員	近隣の他の古巣の諸元や、古巣周辺の植生のデータについて、他事業における調査データを活用することは可能か。そのデータを営巣環境適地の根拠として、△、×と判断した樹林に対する補足的かつ定量的な植生調査が実施できると良い。	情報提供を依頼することとし、今後の調査方法については検討する。
2. 今後の調査について			
	検討会委員	営巣環境としての植生の状況を調査する際は、各層の植被率と群度を調べると良い。	今後予定している植生調査に反映させる。
	検討会委員	岩屋堂観音がある樹林などに、フクロウが繁殖しそうな樹洞があるかもしれない。現地調査時に確認すると良い。	現地調査時に確認を行う。
	検討会委員	現地調査の時期は、猛禽類保護の進め方に記載されている、「オオタカの生活サイクルにおける敏感度」の指標を参考に設定すると良い。	現地調査時期の設定において、参考とする。
	検討会委員	古巣の諸元や、古巣周辺の植生の状況を確認するため、オオタカの繁殖状況がある程度把握できた段階で、検討会として現地視察を行いたい。 現地視察の時期は、H27.2月～3月の営巣場所調査の結果を踏まえ、営巣地が概ね判明した後の、4月中旬ぐらいが良い。	今後、現地視察を計画する。
3. 今後の中長期スケジュールについて			
	検討会委員 一同	今後のスケジュール（事業計画、オオタカの調査、検討会）について、了解した。オオタカの調査・保全対策については、工事着手の前年に具体的な保全対策の検討や対策を実施し、その2年前から前年にかけて行動圏解析等の詳細調査を行うスケジュールで問題ないと考えます。	—

3. 第3回検討会

(平成27年2月23日(月)・24日(火) 持ち回り説明)

◆議事要旨			
審議事項	発言者	意見の主旨	当日の回答
1. 第2回検討会意見の取りまとめについて			
	検討会委員	オオタカの営巣環境という観点から植生調査を行う際は、各層の植物群の被覆度合いを把握することに注力すれば良いと考える。	今後予定している植生調査で、植物群の被覆度合いの把握に注力する。
2. オオタカに関する繁殖期調査について			
	検討会委員	オオタカの営巣環境という観点から行う植生調査の時期は、育雛期間の林相の状態に極力類似する秋季の早い時期(9月)に実施するのが良い。	植生調査の実施時期を調整し、9月上旬～中旬に実施することとする。
	検討会委員	2月に実施したオオタカ調査により、計画路線周辺にオオタカが生息していることが確認されたが、H27繁殖シーズンにおける繁殖の可能性や営巣位置などについては、3月調査の結果も踏まえ、検討する必要がある。計画路線周辺におけるオオタカの生息状況を明らかにするため、3月調査では個体識別ができることを期待する。	3月調査では、H27繁殖シーズンにおける繁殖の可能性や営巣位置の推定と併せて、個体識別にも努める。
	検討会委員	オオタカに関する調査スケジュールは了解した。今後の調査の進め方については、平成27年度早期に予定する委員の現地視察に加え、6月頃に予定する繁殖状況調査の結果も踏まえて検討する必要がある。工事着手時期が明確でない現段階においては、現地調査を平成27年度末で一区切りとし、調査・保全対策の方向性などある程度の結論を出す必要があるのではないか。	ご指摘の内容を踏まえ、今後の調査の進め方を検討する。
3. その他			
	検討会委員	2月の鳥類相調査で確認されたハイタカ・オンドリは越冬個体であると推察され、当該地での繁殖は行わないものと思われる。トラツグミについては引き続き調査を継続し、当該地での繁殖状況の確認を行うと良い。	今後実施する鳥類相調査において、引き続きトラツグミの繁殖状況の確認を行う。

4. 第4回検討会

(平成27年5月14日(木) 13時～17時 現地視察、中津川市役所坂本事務所)

◆議事要旨			
審議事項	発言者	意見の主旨	当日の回答
1. 現地視察結果について			
	検討会委員	千旦林北地区及び岩屋堂地区の樹林は、営巣木近傍に限られた範囲において営巣環境が整っており、オオタカが農作業やカラスに対し脅威を抱くこともないと判断できるため、営巣環境として適していると考えます。	秋季の植生調査で、林内環境の確認を行う。
	検討会委員	千旦林南地区は、過去の営巣木の東側に樹林が広く分布しているため、オオタカが営巣環境を移せる可能性が十分にある。	秋季の植生調査で、林内環境の確認を行う。
	検討会委員	ひょうたん池南側の樹林は、ひょうたん池の釣り人、農業者が、オオタカに対して脅威にならなければ、営巣環境として機能する可能性がある。	秋季の植生調査で、林内環境の確認を行う。また、休日におけるひょうたん池の釣り人の状況を確認する。
	検討会委員	星ヶ見公園周辺からひょうたん池の西側の樹林は、落葉広葉樹が優占し、生育するアカマツも低木で枯死が目立つことから、オオタカの営巣環境としては適さない。	—
	検討会委員	旧ため池の南側樹林は、カラスが多く生息しているため、オオタカの営巣環境としては適さない。	—
	検討会委員	岩屋堂地区営巣木の東側に分布する樹林は、樹林の樹冠が道路や住居など人間の目線よりも下に位置しているため、オオタカが好んで営巣する環境ではない可能性がある。	—
2. 第3回検討会意見の取りまとめについて			
	検討会委員	トラツグミについては、6月のオオタカ調査時にさえずり等が確認されない場合、その後の調査で繁殖状況を追跡する必要はない。	6月のオオタカ調査に、トラツグミのさえずり等の確認に努める。
3. オオタカの繁殖期における6月の現地調査について			
	検討会委員	6月におけるオオタカの繁殖状況の確認については、営巣木の直下まで入る必要はないと思われる。営巣林に入り、営巣木の方向から幼鳥の鳴き声が聞こえれば、繁殖に成功したと判断できる。	6月の繁殖状況調査時には、営巣木の直下には入らず、幼鳥の鳴き声から繁殖状況を判断する。
4. その他			
	検討会委員	早春季～春季のオオタカ繁殖期に営巣林周辺の動植物調査を実施する際は、オオタカに配慮して、営巣木から200m以内の範囲には立ち入らず、十分注意して調査すること。	いただいたご意見を参考にします。

5. 第5回検討会

(平成27年9月11日(金) 13時～15時

各務原市産業文化センター)

◆議事要旨			
審議事項	発言者	意見の主旨	当日の回答
1. 現地調査結果について			
	事務局	6月、7月の営巣・繁殖状況調査結果を報告した。 岩屋堂地区のオオタカは、H27繁殖シーズンは繁殖しなかった。	—
	検討会委員 一同	H27シーズンの営巣・繁殖状況の調査結果について、了解する。	—
2. 鳥類対策検討会（第1回～第3回）総括について			
	検討会委員 一同	鳥類対策検討会（第1回～第3回）の総括の内容について、再確認した。	—
3. 鳥類対策検討会 これまでの総括について			
	事務局	「これまでの検討会 総括（案）」を提示した。	—
	検討会委員 一同	・当該オオタカは毎年同じ巣を利用して繁殖活動を行っていない可能性が高いと考えられる。 ・また、道路整備がオオタカの生息環境に与える影響を低減させるため、今後必要な詳細調査を行い、より具体的な検討及び対策を実施していくと良い。 以上2点を補足した上で、「これまでの検討会 総括（案）」について、了解する。	—
	検討会委員 一同	今後の調査内容やスケジュールについても、了解する。	—
	検討会委員 一同	検討会総括を都市計画審議会に報告することについて、了解する。	—
	検討会委員 一同	これまでの検討会の総括及び議事要旨を県HPにて公開することについて、了解する。	—
	検討会委員	検討会の総括や議事要旨だけでなく、それらの根拠となる「これまでの調査経緯」等についても公開資料として示したほうが良い。	公開できる資料を整理する。
4. その他			
	検討会委員	オオタカの営巣環境を保全するためには、森林整備が必要である。	森林整備について、中津川市と情報交換していく。

6. 第6回検討会

(平成28年2月2日(火) 14時～15時30分 各務原市産業文化センター)

◆議事要旨			
審議事項	発言者	意見の主旨	当日の回答
1. これまでの検討会の振り返りについて			
	検討会委員	これまでの検討会の総括内容を確認し、問題はない。第5回検討会以降の新たな情報についても、了解した。	—
2. 現地調査結果（自然環境調査、社会環境調査）について			
	検討会委員	社会環境の観点に“人間の生活環境（人家や工場等）との距離”も加えて評価すると良い。調査地点のうち1箇所は、周辺に人家や工場が存在しているため、営巣環境としては、あまり適していないものと思われる。	社会環境の観点に、人間の生活環境との距離を加え、評価結果を再検討する。
	検討会委員	評価結果（○、△、×）の基準を明記したほうが良い。評価基準は自然環境調査及び社会環境調査の結果を踏まえて人間が判断するため、ある程度定性的な表現になっても仕方がないと思われる。	評価結果の基準を明記する。
	検討会委員	岩屋堂のH26営巣木は、巣への出入りのしやすさなど自然環境の観点では適しているが、近傍の林道から見通すことができるため、最適な環境とはいえないと思われる。H26営巣木周辺の樹林にはオオタカが営巣可能な環境は存在するものの、全体として少なくなっている中で、今の古巣の位置を選んだと思われる。	いただいたご意見を参考に、検討する。
3. 今後の予定について			
	事務局	今後工事着手3年前までは、引き続きオオタカの繁殖状況について調査を行い、各委員へ報告する。工事着手3年前からは、オオタカの繁殖状況調査とともに行動圏調査も実施していく。また新たな事案が発生した場合には、必要に応じて適宜検討会を設ける。	各委員より了承を得た。
	検討会委員	3月の猛禽類調査はいつ頃実施予定なのか。3月の少し遅い時期に調査が実施できると、繁殖に関わる行動がより確認されやすくなると思われる。	いただいたご意見を参考に、昨年実施した現地調査の結果も踏まえ、調査日程を検討する。
	検討会委員	千旦林南地区のオオタカの繁殖状況については他の近隣開発事業者も引き続き調査を実施していくため、情報を共有しあうと良い。	引き続き情報共有するよう事業者と調整する。

7. 第7回検討会

(平成29年2月16日(木) 各務原市役所、岐阜県庁 持ち回り説明)

◆議事要旨			
審議事項	発言者	意見の主旨	当日の回答
1. これまでの経緯について			
	検討会委員 一同	これまでの検討会の経緯を再確認した。	—
2. H28繁殖期の調査結果について			
	事務局	第6回検討会以降の調査で新たに得られた情報を報告した。	
	検討会委員	近隣開発事業者からの情報である千旦林南地区のオオタカに関して、調査方法の詳細や今年度の結論に至った理由について、確認しておくことが望ましい。	近隣開発事業者に対し、情報の有無を含め確認する。
3. 今後の中長期スケジュールについて			
	検討会委員 一同	現時点で工事着手時期は未定であるため、暫くはオオタカの繁殖状況のみの確認を行う予定であることについて、了承する。今後の中長期スケジュールについて、事務局提案で了承する。	—
4. オオタカの営巣適地解析について			
	検討会委員	岩屋堂地区の樹林にて宅地造成による樹林伐採や小火騒ぎがあったにも関わらず、H28繁殖期の繁殖が成功した理由は、以下の2点が考えられる。 1. 里山環境に定着しているため、人の行動は気にしない個体であること。 2. 他の箇所と比較して、比較的良好な箇所がH26営巣木であったこと。	周辺環境の変化も含め、引き続き、オオタカの繁殖状況を把握するための調査を実施していく。
	検討会委員	H26・H28営巣木の付近には人家や道路が存在しているため、人に対してはある程度慣れが生じているものと考えられる。今後も引き続き、周辺環境の変化やオオタカの繁殖状況を確認しながら、様子を見守っていくことで良い。	同上
	検討会委員	道路に近接する樹林でオオタカが繁殖に成功した事例もある。突発的な音に対しては反応するが、連続的な音であれば慣れが生じるのではないと思われる。 営巣適地解析による評価は、宅地造成による樹林伐採前後の飛翔記録を整理し、主な行動範囲を比較していくのも良い方法と考える。岩屋堂地区のオオタカの特性を踏まえながら、営巣適地解析を行うこと。	今後、岩屋堂地区のオオタカの特性を踏まえながら、営巣適地解析は周辺の社会環境変化の情報も併せたうえで検討していく。
5. その他			
	検討会委員	岩屋堂地区の樹林内で予定されている間伐により、林内での飛翔空間が確保され、生息環境の質が向上することが期待される。伐採については、オオタカの繁殖に影響を与えないよう作業方法に配慮すること。	—